

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	栄養疫学						
担当教員	田中 あゆ子					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	疫学研究の基礎と栄養疫学						
授業の概要	「保健統計・疫学」で学んだ統計及び疫学の基礎を踏まえ、栄養性曝露に重点をおいた食事調査法を含む栄養疫学を解説する。						
到達目標	疫学研究の方法及び食事調査法を概説できる。【知識・理解】【汎用的技能】 疫学指標を算出し正しく解釈できる。【知識・理解】【汎用的技能】 管理栄養士国家試験該当範囲の問題が解ける。【知識・理解】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疫学・栄養疫学の概要 2. 保健統計と統計調査 3. 疫学指標 (1)死亡率 4. 疫学指標 (2)疾病頻度 5. 疫学指標 (3)曝露効果 6. 疫学研究の方法 7. スクリーニング指標 8. 研究倫理 9. 主な統計用語 10. 誤差とバイアス 11. 食事調査法 12. 食事調査と誤差 13. エネルギー調整 (1)密度法 14. エネルギー調整 (2)残差法 15. まとめ 期末試験 ※ 臨地実習との調整のため火曜 1・2限に連続して授業を行う場合がある。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：教科書の該当範囲を読む。 授業後：教科書、授業ノート、配布プリントを用い復習する。 復習ドリル（授業開始時に行った確認テスト）を次回授業までに満点になるまで繰り返し実施する。 学修時間：＜2時間＞						
授業方法	講義 授業開始時に前回の講義内容の確認テスト（松蔭manaba/ PCまたはスマートフォンを使用）を行う。 解説及び提示する内容等をノートにとる。 随時質疑応答を行う。 遠隔授業になった場合も、zoom等のビデオ機能を使用して、対面授業と同様に受講する。						
評価基準と評価方法	小テスト50%（確認テスト40%、復習ドリル10%） ※復習ドリルは点数及び実施状況进行评估する。 期末試験50%						
履修上の注意	出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席、遅刻・早退3回で欠席1回とする。 交通機関の延着証明は学籍番号・氏名を記入して提出する。 臨地実習との調整のため火曜 1・2限に連続して授業を行う場合がある。 臨地実習による欠席は必ず事前に欠席届を提出する。 指定教科書、授業ノートを準備する。						
教科書	クエスチョン・バンク管理栄養士国家試験問題解説2023 ISBN:9784896328752 社会・環境と健康 公衆衛生学 *「公衆衛生学Ⅰ」, 「公衆衛生学Ⅱ」で使用した教科書						
参考書	公衆衛生が見える 2022-2023 メディックメディア ISBN: 9784896328585 国民衛生の動向 2022/2023 厚生労働統計協会 図説 国民衛生の動向 2022/2023 厚生労働統計協会 ISBN: 9784875118725 はじめて学ぶやさしい疫学 改訂第3版 日本疫学会 南江堂 ISBN: 978-4-524-24399-0						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	食物栄養学演習I						
担当教員	橋本 沙幸ほか					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	土曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	管理栄養士に必要とする専門分野の総まとめと最新のテーマを学び、各分野の基礎的知識の定着を図る。						
授業の概要	<p>管理栄養士に必要な専門9分野（社会・環境と健康、人体の構造と機能および疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論）に関する最新のテーマに関して演習を行う。本演習を通して、各分野の基礎的知識を定着させる。</p> <p>オムニバス方式/全15回 （田中あゆ子/1回）※社会・環境と健康 集団を対象とした健康の維持・増進プログラムの実施方法について学ぶ。また、集団を対象とした健康管理に不可欠な、疫学について最新の知見を学ぶ。</p> <p>（坂上元祥/1回）（竹中康之/1回）※人体の構造と機能および疾病の成り立ち 管理栄養士に必要な、人体の正常構造および疾患に関する最新のトピックスを学ぶ。</p> <p>（片平理子/1回）（小林利寛/1回）※食べ物と健康 食品の生産から加工、流通、貯蔵、調理に関する最新の知見を学ぶ。また、現代生活における、食事設計及び調理の役割を再確認する。食品の表示と規格基準についての最新の知識を学ぶ。食べ物と環境問題に関する最新の知見を学ぶ。また、食中毒と食品衛生対策、さらに、食の安全性に関わる法律の最新知識を学ぶ。</p> <p>（竹中康之/1回）※基礎栄養学 栄養素の代謝、疾病の予防・治療における栄養の役割について最新の知見を学ぶ。</p> <p>（橋本沙幸/1回）※応用栄養学 食事摂取基準の概要について学ぶ。また、ライフステージ別の栄養ケア・マネジメントについて最新のトピックスを学ぶ。</p> <p>（橘ゆかり/2回）※栄養教育論 栄養教育に必要な、行動変容の理論やモデルについての最新の知見を学ぶ。また、ライフステージ・ライフスタイルに応じた栄養教育マネジメントについて、最新の知見を学ぶ。</p> <p>（林直哉/2回）※臨床栄養学 傷病者の栄養マネジメントおよび、傷病者の栄養マネジメントに必要な、チーム医療の現状、医療制度の変化について最新の知見を学ぶ。</p> <p>（千歳万里/2回）※公衆栄養学 現代の社会生活に適応した公衆栄養プログラムを計画・実施するために必要な最新知識を学ぶ。また、地域社会の公衆栄養に関する最新のトピックスについて学ぶ。</p> <p>（作田はるみ/2回）※給食経営管理論 現代社会で、安全で安心な給食提供を行うために身につけておくべき最新の知見を学ぶ。また、特定給食施設の関連法規について、最新トピックスを学ぶ。</p>						
到達目標	管理栄養士国家試験合格に必要な各分野の基本的事項を説明できる。【知識・理解】						
授業計画	<p>オムニバス方式/全15回</p> <p>社会・環境と健康 1回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 2回 食べ物と健康 2回 基礎栄養学 1回 応用栄養学 1回 栄養教育論 2回 臨床栄養学 2回 公衆栄養学 2回 給食経営管理論 2回</p> <p>授業時間外に、期末試験を行う。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習（学習時間2時間）：各回授業で扱う内容についてクエスチョンバンクや教科書を使って予習する。</p> <p>授業後学習（学習時間2時間）：授業内容を復習し、関連する過去問を解く。manabaで課題に取り組む</p>						

授業方法	講義（オムニバス方式）：授業で取り扱う問題について、ディスカッションの時間を設ける。
評価基準と評価方法	試験（100%） ※評価方法について在学生ガイダンスで説明を行うので、必ず出席すること。
履修上の注意	1. 指定する模擬試験を必ず受験すること。※交通費は自己負担とする。 2. 「国家試験対策講座」の内容も出題範囲とするため、必ず受講すること。 3. 試験の出題範囲の詳細は在学生ガイダンス及び授業で説明する。 4. 出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 5. 20分以上の遅刻・不在は欠席とし、20分未満の不在（遅刻・早退・途中退出）は3回で欠席1回とする。 6. 臨地・校外実習で欠席する場合は、事前に担当教員に欠席届を提出し、補講を受けること。
教科書	これまでに使用した全科目の教科書 適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	食物栄養学演習II						
担当教員	橋本 沙幸ほか					科目ナンバ-	
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	管理栄養士国家試験の合格を目指し、食物栄養学演習 I で習得した知識を充実させ、さらに応用できるようにする。						
授業の概要	<p>管理栄養士国家試験の合格を目指し、出題傾向とポイントを把握、理解した上で、知識の充実を図る。さらに、様々な角度から理解、応用できるよう、国家試験練習問題を用いて演習を行う</p> <p>オムニバス方式／全15回 （田中あゆ子／2回）※社会・環境と健康 「健康とは何か、そして人間の健康を規定する要因としての社会・環境」、「人々の健康状態とその規定要因を測定・評価し、健康の維持・増進や疾病予防に役立てる基本的な考え方とその取組」、「保健・医療・福祉制度や関係法規の概要」について整理する。</p> <p>（坂上元祥／2回）（竹中康之／1回）※人体の構造と機能および疾病の成り立ち 「人体の構造や機能についての系統的な理解」、「主要疾患の成因、病態、診断及び治療」について整理する。</p> <p>（片平理子／1回）（小林利寛／1回）※食べ物と健康 「食品の生産から加工、流通、貯蔵、調理を経て人に摂取されるまでの過程における栄養や嗜好性の変化」、「食べ物の特性をふまえた食事設計及び調理の役割」について整理する。 「食品素材の成り立ちの理解」、「食品の生産から加工、流通、貯蔵、調理を経て人に摂取されるまでの過程における安全性の確保」、「食品の分類及び成分を理解し、人体や健康への影響に関する基礎的知識」について整理する。</p> <p>（竹中康之／1回）※基礎栄養学 「栄養の基本的概念及びその意義」、「エネルギー、栄養素の代謝とその生理的意義」について整理する。</p> <p>（橋本沙幸／2回）※応用栄養学 「栄養状態や心身機能に応じた栄養管理(栄養ケア・マネジメント)」、「食事摂取基準策定の考え方や科学的根拠」、「各ライフステージにおける栄養状態や心身機能の特徴に基づいた栄養管理」「ストレスや特殊環境と栄養」について整理する。</p> <p>（橘ゆかり／1回）※栄養教育論 「栄養教育の意義及び目的に応じた理論と技法」、「社会・生活環境や健康・栄養状態の特徴に基づいた栄養教育の展開」について整理する。</p> <p>（林直哉／2回）※臨床栄養学 「傷病者や要支援者・要介護者の栄養管理(栄養ケア・マネジメント)」、「疾病の治療・増悪防止や栄養・食事支援を目的として、個別の疾患・病態や栄養状態、心身機能の特徴に応じた適切な栄養管理(栄養ケア・マネジメント)の方法」について整理する。</p> <p>（千歳万里／1回）※公衆栄養学 「わが国や諸外国の健康・栄養問題に関する動向とそれらに対応した主要な栄養政策」、「集団や地域における人々の健康・栄養状態や社会・生活環境の特徴に基づいた公衆栄養活動」について整理する。</p> <p>（作田はるみ／1回）※給食経営管理論 「給食の意義及び給食経営管理の概要についての理解」、「特定多数人に食事を提供する給食施設における利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣などに基づいた食事の提供に関わる栄養・食事管理」、「給食の運営方法とそのマネジメント」について整理する。</p>						
到達目標	管理栄養士国家試験合格に必要な各分野の専門的知識を応用できる。【知識・理解】						
授業計画	オムニバス方式/全 15回 社会・環境と健康 2回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 3回 食べ物と健康 2回 基礎栄養学 1回 応用栄養学 2回 栄養教育論 1回 臨床栄養学 2回 公衆栄養学 1回 給食経営管理論 1回 授業時間外に、期末試験を行う。						

授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習（学習時間2時間）：各回授業で扱う内容についてクエスチョンバンクや教科書を使って予習する。 授業後学習（学習時間2時間）：授業中に解答した練習問題を見直す。知識の定着が不十分な項目は、クエスチョンバンクや教科書を用いて理解して暗記する。manabaで課題に取り組む。
授業方法	講義（オムニバス方式）：授業で取り扱う問題について、ディスカッションの時間を設ける。
評価基準と評価方法	試験（100%） ※評価方法について在学生ガイダンスで説明を行うので、必ず出席すること。
履修上の注意	1. 指定する模擬試験を必ず受験すること。※交通費は自己負担とする。 2. 試験の出題範囲は管理栄養士国家試験過去問および「国家試験対策講座」の内容とする。 3. 後期の指定する「国家試験対策講座」を必ず受講すること。出席数が規定数に満たない場合、再試験の受験資格を失う。 ※2.3.の詳細は在学生ガイダンス及び授業で説明する。 4. 出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 5. 20分以上の遅刻・不在は欠席とし、20分未満の不在（遅刻・早退・途中退室）は3回で欠席1回とする。 6. 臨地・校外実習で欠席する場合は、事前に担当教員に欠席届を提出し、補講を受けること。
教科書	これまでに使用した全科目の教科書 適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	総合演習						
担当教員	千歳 万里				科目ナンバ-		
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	学内および臨地実習での学びの総まとめ						
授業の概要	管理栄養士として知識、技能の総合能力の養成を目指して、栄養評価・判定に基づいた適正な栄養管理を行うためには、専門分野の各教育内容ごとに習得した知識・技能を統合する能力が必要なため、専門分野の各教育ごとに習得した知識・技能を統合する能力が新たに必要のため、専門分野の各教育内容を包含する演習を行う。また、臨地・校外実習のために、必要な演習等を演習前に行い、実習効果をより高める。さらに、実習が終了した後に、実習課題の報告会などを実施し、それぞれの学生が経験したことを持ち寄り、演習等を通して知識・技術の習得する。						
到達目標	(1)臨地実習（臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理）の実習施設の役割を理解し、実習準備・実習での学びについて、チームメンバーと意見交換を行い、プレゼンテーションすることができる。【態度・指向性】【汎用的技能】 (2)臨地実習（臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理）での学びと関連のある管理栄養士国家試験問題について、解説し、クラスメートと意見交換を行うことができる。【知識・理解】【態度・志向性】						
授業計画	<p>第1回 総合演習の授業の目的、授業概要、課題の説明、実習施設（病院）についてまとめる</p> <p>第2回 保健所・市町村保健センター</p> <p>第3回 医療制度、医療圏</p> <p>第4回 母子保健</p> <p>第5回 臨地実習関連法規①地域保健法</p> <p>第6回 行政栄養士の業務指針</p> <p>第7回 臨地実習関連法規②</p> <p>第8回 臨地実習関連法規③</p> <p>第9回 管理栄養士の配置基準</p> <p>第10回 特定健診・特定保健指導</p> <p>第11回 小テスト、高齢者対策</p> <p>第12回 実習報告会事前準備</p> <p>第13回 臨地実習報告会（臨床栄養学）</p> <p>第14回 実習報告会事前準備</p> <p>第15回 臨地実習報告会（公衆・給食）</p> <p>・事前に提示した課題についてまとめ、発表する。 ・臨地実習での学びと関連のある国家試験問題の解説を行う。 ・臨地実習の学びについて、グループ毎にまとめ発表の準備を行い、発表する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：提示された課題について調べ、要点を整理し、発表のための準備を行う。（学習時間90分） 授業後学習：提示された課題について、チームメンバーと意見交換後、manabaレポートに提出する。（学習時間90分）						
授業方法	【プレゼンテーション】実習施設の設置根拠、事業内容、管理栄養士の業務内容等についてまとめ、発表する。 【反転授業】臨地実習に関連した国家試験問題について、解答に導くための知識について、チームメンバーと意見を交換し、必要事項をまとめ、manabaレポートに提示し、クラスメートに説明する。						
評価基準と評価方法	期末試験40%：授業取り扱った課題への理解度について、manaba小テスト用いて評価する。 授業内での提出物40%：毎回の課題の説明の的確さ等を評価する。 演習への取り組み20%：演習への取り組み、グループ討議への参加度、グループ発表の内容により、総合的に評価する。						
履修上の注意	1. 出席回数が開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 2. 小テストへの欠席者には追試はしない。 3. 遅刻は1回の出席とは換算しない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。遅刻3回で欠席1回となる。（交通機関延着による遅刻は、その証明提示によって遅刻とはしない） 4. 授業中は携帯電話・スマートフォンの電源を切っておくこと。 5. 私語・居眠り厳禁。						
教科書	クエスチョン・バンク2023 管理栄養士国家試験問題解説2023 発行所 (株)メディックメディア (3年次にすでに購入しているため、新たに購入する必要はない。) ISBN-13: 978-4896327687						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	卒業演習						
担当教員	橋本 沙幸ほか					科目ナンバ-	
学期	通年／Full Year	曜日・時限	土曜1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	これまでに習得した管理栄養士専門教育科目の各分野の知識を再構築し、それらの知識を活用できる力を養う。						
授業の概要	<p>これまでに学んだ内容を基礎から応用まで分野ごとに復習し、再確認する。各分野の教員がオムニバス方式で講義を行う。（全30回）</p> <p>（田中あゆ子／3回）※社会・環境と健康 健康とは何か、そして人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を理解し、主として集団を対象とした健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な知識や技能について復習し、再確認する。</p> <p>（坂上元祥／3回）（竹中康之／1回）※人体の構造と機能および疾病の成り立ち 人体の構造について器官別に、形態・機能そして主要疾患の成因・病態・診断・治療の概要の理解を確認する。また、個体の調節機能と恒常性などについて、その機構と関連疾患とを系統的に復習する。</p> <p>（片平理子／2回）（小林利寛／2回）※食べ物と健康 食料生産・消費と環境問題との関係を理解する。食品素材の成り立ちを理解し、食品の生産から加工、流通、貯蔵、調理を経て人に摂取されるまでの過程における安全性の確保、栄養や嗜好性の変化を、生産様式による分類に基づき総復習する。食べ物の特性を踏まえた食事設計及び調理の役割についても理解する。</p> <p>（竹中康之／3回）※基礎栄養学 栄養の基本的概念およびその意義を理解するとともに、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割、エネルギーおよび栄養素の代謝とその生理的意義を復習する。</p> <p>（橋本沙幸／3回）※応用栄養学 個々人に最適な栄養ケアを行うためのシステムである栄養ケア・マネジメントの各構成要素および、成長・発達・加齢によるライフステージ別の栄養ケア・マネジメントについて学ぶ。</p> <p>（橘ゆかり／3回）※栄養教育論 行動科学やカウンセリングの理論などの栄養教育関連の理論や概念を復習する。その理論や概念を理解したうえで、対象者（個人または集団）への栄養教育マネジメントについて全体像をより深く理解する。</p> <p>（林直哉／4回）※臨床栄養学 傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養マネジメントができる実践能力を系統的に復習を通じて強固なものにする。またチーム医療に参画する者としての心構えや医療制度等、習得したものを確認する。</p> <p>（千歳万里／3回）※公衆栄養学 地域社会における集団の栄養状態あるいはニーズを把握し、適切な公衆栄養プログラムを計画・実施・モニタリング・評価・フィードバックするための知識と技能について復習する。</p> <p>（作田はるみ／3回）※給食経営管理論 安心で安全な給食提供を行うためのトータルシステムや各種サブシステムについて、特定給食施設の関連法規と様々な給食施設の特徴について復習する。</p>						
到達目標	管理栄養士養成課程に必要な各分野の習得事項を説明できる。【知識・理解】						
授業計画	<p>オムニバス方式/全30回</p> <p>社会・環境と健康 3回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 4回 食べ物と健康 4回 基礎栄養学 3回 応用栄養学 3回 栄養教育論 3回 臨床栄養学 4回 公衆栄養学 3回 給食経営管理論 3回</p> <p>授業時間外に、中間試験および期末試験を行う。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習（学習時間2時間）：各回授業で扱う内容についてクエスチョンバンクや教科書を使って予習する。</p> <p>授業後学習（学習時間2時間）：授業内容を復習し、関連する過去問を解く。manabaで課題に取り組む。</p>						

授業方法	講義（オムニバス方式）：授業で取り扱う問題について、ディスカッションの時間を設ける。
評価基準と評価方法	試験（100%） ※評価方法について在学生ガイダンスで説明を行うので、必ず出席すること。
履修上の注意	1. 期末試験は「クエスチョンバンク2023」から出題する。 2. 出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 3. 20分以上の遅刻・不在は欠席とし、20分未満の不在（遅刻・早退・途中退出）は3回で欠席1回とする。 4. 臨地・校外実習で欠席する場合は、事前に担当教員に欠席届を提出し、補講を受けること。 再履修者 ※本代、中間試験（栄養士実力認定試験）の試験費用は自己負担とする。 ※国家試験対策講座への出席は可能。
教科書	「クエスチョン・バンク管理栄養士国家試験問題解説 2023年度版」 ISBN:978-4-89632-875-2 ※3年次で購入済み 適宜プリントを配布する。
参考書	2023年度版 栄養士実力認定試験過去問題集（建帛社）（社）全国栄養士養成施設協会編

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	臨地・校外実習課外科目						
担当教員	橘・千歳・作田・林					科目ナンバ-	
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	0.0
授業のテーマ	臨地・校外実習の事前・事後指導						
授業の概要	授業で修得した知識や技術を臨地・校外実習の実践的経験を通して定着化し、レベルアップが図れるよう一人ひとり学生に支援することを目的とする。本実習受け入れ施設の社会における機能（使命）、特徴を学び臨地・校外実習課題を考え実習計画を個々に作成し検討する。						
到達目標	臨地・校外実習の目的が理解できる。【知識・理解】 授業で修得した知識や技術を臨地・校外実習で応用できる。【態度・志向性】						
授業計画	○公衆栄養学コース 「校外実習」、「臨地実習（臨床栄養学）」、「臨地実習（公衆栄養学）」を履修するコースです。 授業は3年次および実習直前（3、4年生次）に実施します。 ○給食経営管理論コース 「校外実習」、「臨地実習（臨床栄養学）」、「臨地実習（給食経営管理論）」を履修するコースです。 授業は3年次および実習直前（3、4年生次）に実施します。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・時間外指導やグループ作業が必要になることがあります。 ・臨地・校外実習の実習課題（臨床栄養学分野も含む）のまとめは「総合演習」で行います。						
授業方法	集中講義						
評価基準と評価方法	・「臨地・校外実習課外科目」の理由のない欠席やレポート未提出の場合には、「校外実習」および「臨地実習」の履修資格要件を満たさないものとする。 なお、それぞれの実習の履修要件となる授業は別に指定し、プリントで配布します。 ・「臨地・校外実習課外科目」は単位化されないため、課外科目中に提出したレポート等の評価は「校外実習」、「臨地実習（臨床栄養学）」、「臨地実習（公衆栄養学）」および「臨地実習（給食経営管理論）」として評価を行う。						
履修上の注意	・臨地・校外実習課外科目は、卒業単位には算入されないが、臨地・校外実習の履修資格要件となる。 ・3年次に校外実習を履修せずに臨地実習を履修する人は、ガイダンスおよび別に指定する授業を受けることが望ましい。 ・コースは3年前期に選択します。3年後期の指定した授業から「公衆栄養学」選択クラスと「給食経営管理論」選択クラスに分かれて授業を行います。 ・PCを使用することがあります。						
教科書	プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	臨地実習（臨床栄養学）						
担当教員	林 直哉					科目ナンバ-	
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	病院臨地実習「臨床栄養学」は、10日間グループごとに指定された実習先に行き実習をする。傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた栄養管理が理解でき、管理栄養士業務について理解する。						
授業の概要	実践活動の場で課題の発見、解決を通して、根拠に基づく適切な栄養マネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識および技術を習得することを目的とする。そのために「臨床栄養学」の実習目的を達成するため「医療施設」で実習し、学内で修得した知識・技術を、理論と実践に結びつけて理解する。						
到達目標	(1) 傷病者について、予備知識がない人がわかるように栄養管理を説明することができる。(知識・理解) (2) 傷病者の病態や栄養状態について、具体的なものとして栄養管理が理解することができる。(態度・志向性) (3) 日々の実習内容について、明快な文書で実習ノートを記述することができる。(汎用的技能) (4) 傷病者の病態と治療食について、具体的なものとして理解できる。(知識・理解) (5) グループのメンバーと協力して実施することができる。(態度・志向性) (6) 病院管理栄養士業務が理解できる。(知識・理解)						
授業計画	1. 臨地実習「臨床栄養学」の目的、教育目標、実習の目的、具体的な目標、医療機関の基本的な考え方、献立管理、衛生管理、経営管理、備品管理などの説明 2. 栄養アセスメントに用いられる身体的計測のパラメータと判定基準 3. 栄養アセスメントに用いられる臨床検査と基準値 4. 医療用語 5. 実習終了後、グループごとの反省会 授業計画 6. 病院臨地実習「臨床栄養学」のグループごとの発表会						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	病院実習前学習：病院実習先、課外科目について、下調べをすること。(学習時間：2時間)。 病院実習後学習：実習で理解(解決)できなかったことについて、グループごとにディスカッションを行う。実習の内容結果について、各自で実習ノートを作成する。(学習時間：2時間)。						
授業方法	講義：内容に沿った授業を行う。またテーマに沿ったディスカッションを行う。 病院実習：10日間グループごとに指定された実習先に行き実習をする。指導責任者の指示に従うこと。						
評価基準と評価方法	実習態度：実習施設の評価点：50%、実習ノート30%、事前・事後指導の実習態度20% 実習態度：実習への取り組み、グループディスカッションへの参加度により、総合的に評価する。到達目標：(1)(2)(4)(5)(6)に関する到達度の確認。 実習ノート：実習結果をもとにした実習ノートが作成できているか評価する。到達目標：(3)に関する到達度の確認。尚、実習ノートの評価後は、各自に返却する。						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨地・校外実習課外科目の臨床栄養学の履修要件となっている授業に出席すること。(臨地・校外実習課外科目は、単位化されない。) ・ 90時間の臨地実習（臨床栄養学）および臨地・校外実習課外科目の出席をもって1単位とする。 ・ 実習期間中の欠席は、原則認めない。事前訪問、実習期間中の交通費は自己負担となる。 ・ 抗体価検査は、麻疹・風疹・水痘・ムンプスが陰性および「抗体価陽性(基準を満たさない)」の場合、ワクチン接種が必要である。ワクチン接種の領収書(証明書)を共同研究室に提出すること。尚、ワクチン接種は自己負担とする。(病院によりHBs抗原検査もある。別途指示) ・ 病院実習までに「栄養士をめざす学生の研修会」へ参加することが望ましい。 ・ 病院と給食管理実習で3週間行く場合は、経路以外の定期を買うことができます。学生課に1ヶ月半前に申請をすること。 ・ 病院実習中に必須科目を履修している方は、欠席届(教務課)を事前に担当の先生に提出をすること。 ・ 住所、電話番号(携帯)を変更した際は、学生課、共同研究室、病院実習担当者に連絡すること。 						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	奈良信雄著『看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック第6版』（医歯薬出版）						